



ウズベキスタンでコージェネレーションシステム実証に本格着手 ～従来比38%の省エネ化と電力・熱の安定供給目指す～

ウズベキスタンでは、経済発展のために電力供給の安定化が必要とされています。特に同国フェルガナ地域は、人口集中による電力需要が大きいのにに対して、送電を遠方地域に依存しているため、供給電源の分散化が求められています。

そこでNEDOと丸紅ユティリティ・サービス(株)、川崎重工は、ウズベキスタンのフェルガナ市でガスタービンコージェネレーションシステムの実証事業を開始しました。

ガスタービンにより電力供給の分散化を図ることで、従来、遠方の大型発電所から電力を送電していた地域に対して、近傍からの電力供給が可能となり、施設のエネルギー効率の改善だけでなく、送電距離の短縮による送電ロス改善に貢献できます。

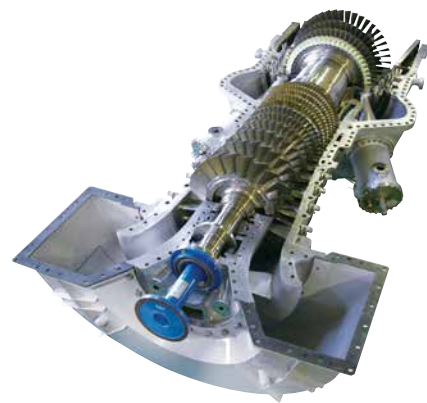
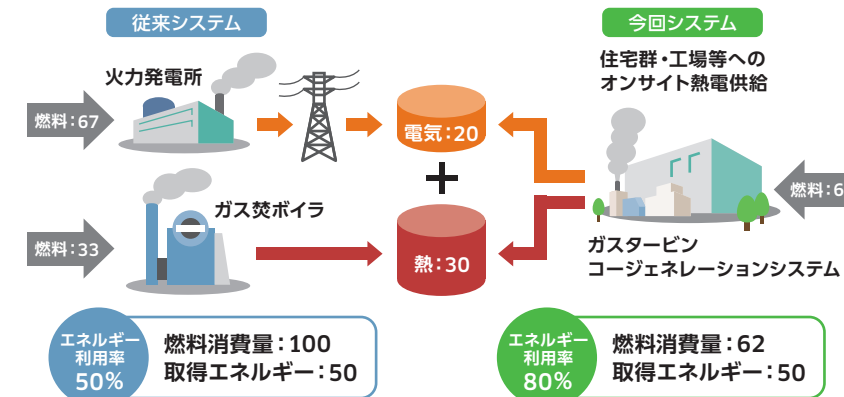
今後、設備の導入や実証を進め、2020年度末までに同市内の実証サイト2カ所へガスタービンコージェネレーションシステムを実装し、従来比38%の省エネルギー化および電力と熱の安定供給の実現を目指します。



実証サイトの位置

実証システムのイメージ

出典数値：図中の数値は、RK-3熱供給所における試算値
(従来システムの燃料消費量を100とした場合の割合を示す)



本実証で用いる川崎重工製ガスタービンのイメージ

関連会社



広範囲の患者移動機能を有する手術台 「Vercia (ヴェルシア) SOT-100」を発売

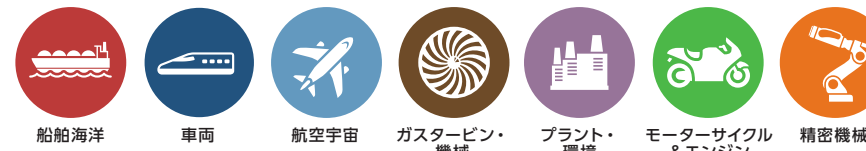
川崎重工とシスメックス株式会社(本社:神戸市、代表取締役会長兼社長:家次恒、以下「シスメックス」)の合併会社である株式会社メディカロイド(本社:神戸市、代表取締役社長:橋本康彦、以下「メディカロイド」)は、2017年3月28日、ハイブリッド手術などで要求される広範囲な患者移動機能を実現した手術台「Vercia SOT-100」を発売しました。



本製品では、手術室での位置と姿勢を自由に設定可能で、複数のポジション(麻酔、手術、透視画像撮影位置等)を記憶でき、それらの位置への正確かつ迅速な移動が可能となっています。位置・姿勢を移動させる駆動部には、メディカロイドのコアテクノロジーである最新のロボット技術を応用し、患者様をスムーズに移動させることが可能です。また、その駆動部は手術台ベース部にコンパクトに収まり、手術に関わる方々が作業しやすいようになっています。さらに、患者様を乗せるテーブルトップは、X線の透過性にすぐれた炭素繊維強化プラスチック(CFRP)製で、本製品に患者様を乗せたまま透視画像撮影が可能です。

メディカロイドはこの手術台「Vercia SOT-100」により、ハイブリッド手術の効率的な運用に貢献してまいります。さらに、今後は一般手術への適用や、将来発売予定の手術支援用ロボットとの動作連携を図ってまいります。

最新の技術・製品情報をお届けします



HOT TOPICS

航空宇宙



米国にボーイング777X用貨物扉の製造ラインが完成。 2016年度のサプライヤー・オブ・ザ・イヤーを受賞。

川崎重工は、米国の現地法人Kawasaki Motors Manufacturing Corp., U.S.A(以下、KMM)のリンカーン工場において、ボーイング社の最新鋭民間旅客機であるボーイング777X用貨物扉の製造ラインを完成させ、2017年5月18日に開所式を行いました。

今回完成した製造ラインは、リンカーン工場にある既設建屋内の約2,800m²のエリアに2015年12月から整備を進めていたもので、川崎重工として初めて米国に設置した航空機用部品製造ラインです。また、すでに試験製造にも着手しており、今秋より本格的に製造を開始します。今後はリンカーン工場を米国における航空機用部品の主要製造拠点と位置付け、民間航空機事業およびKMMの発展・拡大に向けて積極的に取り組んでいきます。

川崎重工グループの日本飛行機は、ボーイング社より「2016年度

ボーイング・サプライヤー・オブ・ザ・イヤー(コラボレーション部門)」を受賞しました。今回の受賞は、1998年の「ボーイング社長優秀賞」以来の受賞となります。

この度の受賞は、川崎重工の「高い品質」「競争力のある価格」「納期の厳守」が評価されただけでなく、ボーイング社への前向きな提案活動など「顧客とのコラボレーション」、すなわち「ワーキング・トゥギャザー」の姿勢が高く評価されたものと考えています。今後も新たな課題に積極的に取り組み、カスタマーの価値向上に継続的に貢献して行くとともに、独自技術をさらに発展させ、航空機産業の一翼を担っていきます。



ボーイング777X用貨物扉製造ライン



「2016年度ボーイング・サプライヤー・オブ・ザ・イヤー」受賞式の様子

車両



台湾桃園国際空港線の開業について



丸紅株式会社(以下、丸紅)、川崎重工、株式会社日立製作所(以下、日立)が共同で、2006年1月に鉄道システム一式供給並びに車両基地の建設を受注した桃園国際空港線(以下、空港線)が、2017年3月2日に開業しました。

空港線は台湾初の空港アクセス線で、台北駅から年間約4,000万人が利用する桃園国際空港を経由し、郊外住宅圏(中壢区)まで運行する総延長約51km(21駅)の路線です。また、空港線は台湾初の急行列車と普通列車の混合運行であり、沿線住民の重要な交通手段として移動時間の短縮になるとともに、交通渋滞の緩和につながる期待されています。空港利用者向けに台北市内での荷物のインタウンチェックイン機能を備えており、荷物を持ち歩くことなく手軽に行動することができ、高い利便性を誇ります。

本プロジェクトにおいては、丸紅が全体のまとめ、信号・通信システム、軌道敷設工事などを、川崎重工が車両を、日立が変電システムを担当しています。